

【講師紹介】

鈴木 裕子さん

1981-2年に『山川菊栄集』全10巻+別巻の編集に携わって以来、山川菊栄研究に従事してきた、山川菊栄の生き字引的存在。単著『自由に考え、自由に学ぶ—山川菊栄の生涯』（労働大学2006）のほか、新装増補『山川菊栄集 評論篇』全8巻+別巻（岩波書店2011-12）を編集・解説している。今回は、山川の生涯を振り返りつつ、日本フェミニズム史上における山川菊栄の意義を語っていただく。

伊藤 セツさん

『クララ・ツェッキンの婦人解放論』（有斐閣 1984）、『クララ・ツェッキン—ジェンダー平等と反戦の生涯』（御茶の水書房2013、増補改訂版2018）、『国際女性デーは大河のように』（御茶の水書房2003、増補版2019）等で知られる、クララ・ツェッキン及び国際女性デーの研究家。近著『山川菊栄研究—過去を読み、未来を拓く』（ドメス出版 2018）で、山川研究に新しい息吹を吹き込んだ。今回は、同書の内容を基に、クララ・ツェッキンや、ベーベルの邦訳等を通じて、第二インター、コミンテルンの女性政策の受容などを論じていただく。

豊田 真穂さん

GHQ/SCAP等の資料を駆使する占領期研究のホープ。主著『占領下の女性労働政策—保護と平等をめぐって』（勁草書房 2007）で、労働基準法の制定過程、労働省婦人少年局の設置並びに政策展開を、GHQ/SCAP、日本の政府・官僚、労働組合婦人部三者の絡み合いの中で詳細に分析。今回は同書を基に、GHQ・旧内務省官僚と労組婦人部等の複雑な関係の中で、弱小部局の初代局長として、女性労働行政の基礎を作った山川の活動を話していただく。

浅倉 むつ子さん

『男女雇用平等法論—イギリスと日本』で山川菊栄賞を受賞した労働法学者。近著に『労働運動を切り拓く—女性たちによる闘いの軌跡』（共著）（旬報社 2018）、『雇用差別禁止法制の展望』（有斐閣2016）がある。今回は、イギリスにおける包括的な平等法、ILOのハラスメント禁止条約にみる「女性に対する暴力」の新しい捉え方等、山川以後に展開されつつある、最新の国際的動向を中心にお話しいただく。